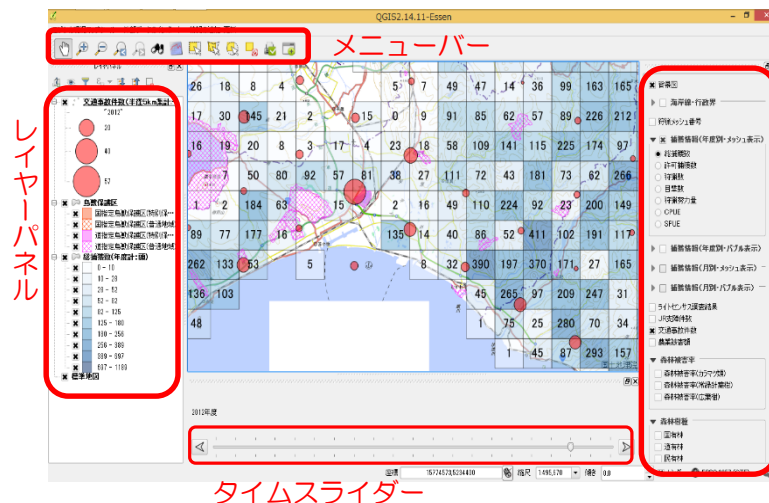


効果的なエゾシカ被害対策にはエゾシカの様々な情報の収集検討が必要ですが、情報は様々な機関・媒体に散在しています。そこで関連情報を集約・可視化する「エゾシカ現況マップ」を開発しました。オープンソースのGIS（QGIS）を用いて捕獲数や鳥獣保護区配置等を収録し、GIS未経験のユーザにも利用しやすい操作性を確保しています。本システムは道内の各市町村・関係機関にも配布し、効果的な捕獲計画立案等への活用を期待しています。

○エゾシカ現況マップの配布

捕獲数、ライトセンサスなどの調査結果をとりまとめてGIS化した「エゾシカ現況マップ」（オープンソースのQGISで操作が可能）を全市町村に配布し、情報の共有化と見える化を図っています。

■マップの基本画面



収録情報をクリックで表示選択（重ね合わせ可）

背景図



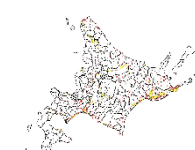
自然公園・鳥獣保護区



捕獲数（メッシュ毎）



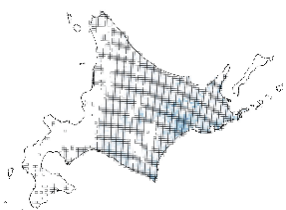
交通事故件数



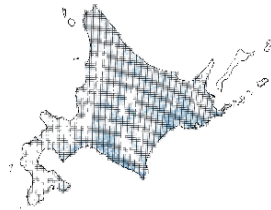
その他（森林所有界、農林業被害額、積雪深、等）

表示年等を切り替えて表示

捕獲数（2000年）



捕獲数（2012年）



捕獲数や生息状況の年次変化をひと目で把握可

その他（主なもの）



エリア選択（検索）

・市町村やメッシュ番号から表示エリアの選択（検索）が可能



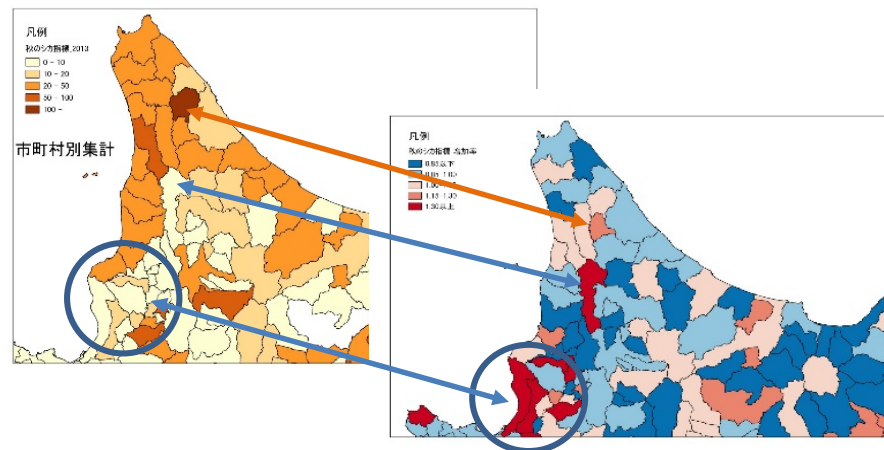
印刷機能

・印刷ユーティリティ上で地図の移動、縮尺変更、凡例追加等が可能

■市町村別集計機能（捕獲数、秋の指標（ライトセンサス）、冬の指標（SPUE）、農業被害額）

- ・捕獲数や生息状況等の指標について、市町村別の集計値と、直近5年間の増加率を表示可能
- ・例えば秋の指標を集計と増加率で比べてみると、
 - 「集計値 高」かつ「増加率 土」→生息数高止まり
 - 「集計値 低」だが「増加率 高」→生息数増の恐れといった分析が可能

～今後対策の強化が必要な地域は何処か？～



■一般公開向けWeb版

- ・現況マップのうち、捕獲数や鳥獣保護区、交通事故件数などの一般向けデータはインターネットで公開予定

○情報交換会の実施

さらに出先機関（総合振興局・振興局）ごとに対策協議会を設置し、年1回市町村や地元狩猟者団体と情報交換を実施し、意識の共有を図っています。

